

団体活動取りまとめシート

	自治連合会白井第三小学校区支部	地区社会福祉協議会	西部地区民生委員児童委員連絡協議会	青少年相談員連絡協議会	白井第三小学校PTA
強み・自慢・売り	地域に密着し、地域をまとめていく組織としての役割を担っている	・みんな仲良しでボランティア意識が高い ・地域の人が協力していただける	・団結心がある	・市全体で 20～50 代までの幅広い年齢層がいて様々な考え方を取り込める ・西部ブロックや印旛地区など、広域的な連携を行っている	比較的協力的な人がいる
組織	第三小学校区内の 10 自治会で構成 役員:支部長、副支部長、会計、監事、書記	推進委員 31 人(ボランティア、自治会長、民生委員、母子保健推進員、商店会、婦人会、元 PTA)、協力員 役員:会長、副会長、事務局、会計、監査	西部地区全体で定数 25 人(三小区定数 15 人、[内訳]民生委員 14 人、主任児童委員 1 人) 次期から西部地区定数 27 人(大小区定数 2 人増) 任期:3 年	31 人(第 20 期青少年相談員)のうち、白井第三小学校区は 5 人 任期:3 年間 年齢層 30 歳代～40 歳代	563(世帯数+教職員) 運営委員会の下に、学級部、専門部、校外指導部、バレー部があり、地域との接点は校外指導部(20 人程度)が中心
活動の主な収支 (1000 円未満切捨)	[主な収入]補助金 401,000 円(地域まちづくり活動補助金)ほか [主な支出]防災訓練事業 218,000 円、こいのぼり祭り 100,000 円、防災連合立ち上げ備品 96,000 円 ほか	[主な収入]助成金 575,000 円(市社会福祉協議会から)、雑収入 154,000 円(模擬店ほか) [主な支出]高齢者支援 243,000 円(ふれあい食事会)、地域交流 100,000 円(こいのぼり祭り)いきいきサロン 66,000 円(ミニ食事会、茶話会)ほか	西部地区全体の収支 [主な収入]活動費 40,000 円(民生委員児童委員連絡協議会から) [主な支出]西部地区総会・視察研修ほか 40,000 円	[主な収入]地区活動助成金 45,000 円(市→青少年相談員連絡協議会→)、富士センター運営協議会事業費 43,000 円、参加費 50,000 円 [主な支出]食費(参加者)29,000 円、報償費(謝礼)28,000 円、事務費 19,000 円、食費(スタッフ、調味料等)18,000 円、保険代 8,000 円ほか	[主な収入]会費(年 3,600 円)2,026,000 円など [主な支出]PTA 活動費 868,000 円、学校協力費 600,000 円、PTA 運営費 399,000 円 ほか
主な事業 ①事業名称 ②目的・内容等 ③参加者 ④運営・協力体制 ⑤課題・将来展望	①こいのぼり祭り ② 交通整理(車誘導、駐車場案内)を中心に参画 ④ 自治連合会第三小学校区支部として共催、地区社協 ⑤ 人員の確保 ①防災訓練 ② 自治会が参加し、煙体験、AED、通報訓練、水消火器、防災倉庫の展示、応急処置の訓練を受ける ③ 508 人 ④ 外部協力:消防署、消防団、危機管理課 ⑤ 将来展望:実際の災害を想定した防災訓練の企画・実施 ①青パト巡回 ② 夏休み前、冬休み前に第三小学校区内を青パトにて巡回するとともに、危険箇所を知る ③ 参加者数:毎回 4 人 ④ 外部協力:第三小学校、社協、民生委員 ⑤ 課題:青パト運転許可書を持っている人が少ない、将来展望:防犯指導員や PTA 等との連携による青パトの更なる有効活用 ①花火であそぼうかい ② 子どもたちに夏の風物詩となる花火を見せたり、花火で遊んだり、安全に楽しく過ごす ③ 子ども 200 人(総勢 400 人程度) ④ 外部協力:消防団、第三小学校、第三小学校 PTA、県安全協会 ⑤ 将来展望:継続して取り組んでいきたい	①こいのぼり祭り ② 毎年 5 月 4 日に富士南園広場にて、地域・世代間交流を図るため、こいのぼりをあげ、舞台、模擬店、フリーマーケットなどでイベントを実施 ③ 1,700 人 ④ 自治連合会第三小学校区支部、富士センター運営協議会、一般ボランティア ⑤ 高齢化により運営負担が増しており、会場設営等で負担軽減を図りたい ①ふれあい交流食事会 ② 70 歳以上を対象に歌、踊り、食事等を通じて楽しいひと時を過ごしてもらう ③ 244 人 ④ 地区社協、協力員 ⑤ 参加してほしい人が会場に来れないため、送迎体制の充実を図れば良い ①区・自治会単位の健康相談とミニ食事会 ② 生活に身近な場で高齢者が楽しみ交流できる機会を提供する(毎年 2 地区) ③ 各地区 30～40 人程度 ④ 地区社協 3～4 人 ⑤ 各自治会地域で実施できるよう広げたい ①喫茶室「みるく」・いちごクラブ ② 乳幼児を持つ母親の支援、友達づくり・交流 ③ 毎月 1 回開催 みるく…年 671 人 いちごクラブ…月 40 組まで ④ 富士センター、協力員(ボランティア) ⑤ みんなとなかなかなじめない人がいる その他に、講座事業(生花・絵手紙・クラフト・コーラス)、健康歩こう会(毎月 1 回)、グランドゴルフ(毎月 2 回)、ラミチェ茶話会(毎月 1 回)、独居高齢者安否確認等を実施	生活上の困りごとや心配ごとに関する相談に応じ、必要な支援を受けられるよう専門機関へつなぐ役割を担っている ①地域への訪問(見守り)活動 ② 独居、高齢者世帯、児童等の見守り活動を実施(訪問や電話等) ①地区社会福祉協議会での活動 ② こいのぼり祭り、ふれあい食事会等、様々な事業・イベントで多くの人と顔みしりになりながら、併せて個々人の状況を確認 ①事例報告 ② 地域での活動事例と対応方法の情報共有(年 6 回程度) ①学校訪問 ② 大中、大小、第三小にて子どもや地域の状況を情報交換 ①米寿のお祝い品の配達 ①心配事相談の相談員として参加 協力:行政、自治会、地区社会福祉協議会、各種福祉施設、幼稚園、学校ほか	①富士センター通学合宿 ② 子どもたちが 3 泊 4 日の宿泊を通した様々な体験をもとに自立・自律、思いやり、地域の人の愛情を学ぶ 会場:富士センター、時期:7 月第 2 週日～水 内容:レクリエーション、買い物、食事作り、もらい風呂など ③ 小学 4～6 年生 20 名 ④ 青少年相談員 5 名が運営し、富士センター運営協議会(人的・事務的支援)、地区社協、大山口中学校ボランティア部が協力 ⑤ 課題: ・ボランティアの固定化・高齢化 ・青少年相談員がみんな仕事をしているため、夕方からしか運営に参加できない ・富士センターの炊飯器だけでは足りず、個人の私物を使用している 将来展望: ・事業を継続し、過去の通学合宿参加者の運営への参加	①登校指導 ② 子どもの登校時(7 時 20 分～8 時)の安全上の見守りを定められた場所にて毎朝実施 ④ 全 PTA 会員が分担し、保護者 2 人体制で実施割り当ては、地区内で調整し 1 人当たり年 3、4 日程度割り当てられる ⑤ ・一人で実施する時は心配 ・小さな子どもを持つ保護者は、子ども連れで見守りせざるを得ない状態にあり危険が伴う ・見守り時間より早く登校する子どもは見守れない ①夏休み地区パトロール ② 夏休み期間中、防犯・安全の視点から地域の確認を行うとともに、その情報を報告してもらい取りまとめてマップ化 ④ 適宜自由な時間に PTA 各々で実施 ⑤ 特になし ①こども 110 番協力 ② こども 110 番が継続的に行われるよう、こども 110 番の協力意向の調査、協力者への登録更新のお願いを実施 ④ 校外指導部 ⑤ こども 110 番の設置場所等の把握が未整備のため、情報把握しマップ化する必要がある
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他	① 1 年毎にメンバーが変わるため、次年度メンバーへの細やかな引継ぎが必修である	① 高齢化によるマンパワー不足で事業の拡大が難しい	① なり手がいない ・各自治会、地区社協推進員、ボランティアセンター、市民大学校等に PR・呼びかけし、もっと知ってもらい、欠員をなくしたい ・協力意向をもつ潜在的な担い手を効果的に発掘できる方法があればいい	① なり手がいない ・対象年齢の上限が 55 歳まで引き上げられたが、なり手がいない状況にあり、子育てにひと段落した人等を含め、なり手を増やしたい	① 仕事等で忙しい家庭が多く、活動に参加しない、参加できない会員が増加傾向
団体の将来展望	・自治連合会第三小学校区支部の認知度を上げ、存在価値や必要性を高めていきたい	・地域生活支援(ゴミ出し、電球交換、庭木伐採、家具移動等)の体制づくり ・忙しい家庭の子どもたちへの朝食の提供 ・誰もが気軽に来れるサロンの開催	・今までの活動を継続し、福祉を中心テーマに活動	・通学合宿の人数を増やしたい。 現状では運営の担い手不足、施設環境(調理室のガス台や炊飯器の数)により人数拡大は難しい	・必要な PTA 活動を見定め、つながりを途切れさせないように配慮しながら事業のスリム化を図る
団体活動を通して感じる地域課題	・自治会を統括している団体である自治連合会第三小学校区支部としての認知度が低い	・高齢化の進行による担い手不足、外に出て来れない、来ない人の増加 ・事業参加者が同じ人が多く、広がりが無い ・コミュニケーションが苦手な人がいる	・高齢化により家族や隣近所との関係などのトラブルの増加 ・若い人や現役の人の郷土愛の意識の向上	・地域の地区活動、ボランティアへの関心が低い	・外で遊べる場が少ない ・保護者の地域への関心が低い もっと保護者が地域に関心を持つ必要がある

	富士センター運営協議会	富士消防団	白井第三小学校区防災連合	交通指導員	防犯指導員
強み・自慢・売り	地域に詳しくネットワークを持つ人が集まっている	地元の団として情報共有や協力体制ができている		・制服を着用することにより、歩行者や運転者に交通安全に関する啓発ができる	・地域への貢献ができる ・青パトをとおし子どもたちに安心感を与えられる
組織	職員 15 人、理事 14 人 計 29 人 理事、副理事長、理事、監事	部長(1人)、班長(1人)、連絡長(2人)、団員(9人)の13名体制 (定数15人)		市内 26 人(定員 30 人) 第三小学校区 9 人(富士東 3 人、栄区 3 人、富士西 2 人、南園 1 人) 任期:2 年	白井市全体で143人 そのうち白井市第三小学校区で25人
活動の主な収支 (1000 円未満切捨)	[主な収入]委託費 32,802,000 円、貸館収益 3,113,000 円、講座参加費 95,000 円ほか [主な支出]人件費 22,723,000 円、管理費、事務費 2,827,000 円、事業費 ほか	[主な収入]消防費(区、自治会)1,765,000 円、消防費(市よりポンプ委託料・団員報酬・出勤費用弁償)778,000 円ほか [主な支出]団員報酬 797,000 円、出勤訓練費 673,000 円、出勤訓練費用弁償 209,000 円ほか		[主な収入]なし [主な支出]なし	[主な収入]なし [主な支出]なし
主な事業 ①事業名称 ②目的・内容等 ③参加者 ④運営・協力体制 ⑤課題・将来展望	①みるく、いちごクラブ [家庭教育] ② 母親同士の友達づくり ③ 各月1回開催 みるく…年 671 人 いちごクラブ…月 40 人 ④ 地区社協の協力 ⑤ スタッフが高齢化し、世代交代で若返りが必要 ①通学合宿 [青少年教育] ② 子どもたちが 3 泊 4 日の宿泊を通した様々な体験をもとに自立・自律、思いやり、地域の人の愛情を学ぶ [会場]富士センター、[時期]7 月 [内容]レクリエーション、買い物、食事作り、もらい風呂など ③ 小学 4～6 年生 20 名 ④ 青少年相談員 5 名が運営し、地区社協、大山口中学校ボランティア部が協力 ①認知症予防ケア講座 [成人教育] ② 外部講師を招き、月 1 回 12 回コースで認知症予防の講座を開催する ①世代間交流・グランドゴルフ大会 [団体育成] ② 小学生と高齢者がグランドゴルフをとおして交流を図る(11 月) 会場:第三小学校グラウンド ①美化交流 ② センター周りの美化のため植栽や草取りを行う ④ 富士センター職員と地域の協力者が運営し、造園事業者が協力 ①ふじっこダイニング ② 小学生に食事を提供する ③ 15 人～25 人程度 ⑤ 大人向け(高齢者)を実施し、ゆくゆく子どもと大人と一緒に食事できる取り組みを目指したい、R2-1 月から開催 ①朝の見守り ② 忙しい家庭の子どもを登校前の朝 6 時 30 分～7 時 30 分まで富士センターで預かり見守る ⑤ 見守りと併せ朝食の提供が出来たらいい ①しろい楽トレ体操教室 ② 楽しみながらみんなで体を動かし日常生活に必要な筋力を維持する ③ 1 回 20 人程度 ⑤ 男性の参加促進	①火災出動 消防署後方支援、鎮火後の残火警備 ①災害出動 風水害等災害時 ①火災予防広報 火災予防運動(春・秋)時等の広報活動 ①行方不明者の捜索活動 市の要請による ①訓練 市主催:夏季・冬季、操法[隔年] 団活動:資機材維持管理 水出し・警ら(月 2 回) 防火水槽点検等 ①地域行事への警備協力 節分祭豆まき大会(栄)、こいのぼり祭り、夏祭り(栄、合同)、みこし祭り(栄)、レクリエーション大会(南園)、花火で遊ぶう会、防災訓練、神社年越し ⑤ ・平日昼間地域にいる団員が少ないため出勤時 2～3 名になってしまう ・団員募集してもやめてしまうケースがある ・募集について自治会の総会で依頼を行っているが集まらない(定数割れ状態) ・昼間地域にいる女性を消防団員、火災時に応援できる団員(機能別消防団)が必要	①防災啓発活動 昨年の秋の台風被害(停電による信号停止)により第三小学校区内の防災活動の必要性が唱えられ、自治連合会第三小学校区支部で防災をテーマとする連合組織の立ち上げ提案があり賛同された ② 自治会関係者が集まり 3 月に防災の啓発活動を実施	①交通安全教室 ② 保育園、幼稚園、小学校・中学校にて年代にあわせ交通安全のための教室を開催(例)横断歩道の渡り方、信号の見方、自転車の乗り方、自転車の点検等 ③ 園児、児童、生徒 ④ 交通指導員一組(3～4 人)で開催 1 人年 3～4 回程度 ⑤ ・交通安全教室を午前中いっぱいかけて実施しているが、学年毎に分かれて実施するため、実際に指導できる時間が 40 分程度と短く、十分な指導が行えない ・保護者にも安全教室を見に来てもらい、保護者の意識啓発が必要である ・交通安全教室で通学路外を歩かせる学校もあり、子どもに危険が生じるため、交通指導員として安全上の責任が重く負担である	①防犯パトロール ② 青パトでのパトロールを自治会内 4 名体制で実施(年 2 回) ③④ 南園自治会 ①年末パトロール ② 年末に自治会にて防犯、防火の目的で富士センターを出発点として 2 グループに分かれてパトロールを実施 ③④ 南園自治会 30、40 人 他に合同夏祭りでパトロールを実施 ①防犯啓発活動 ② 市からメールで送られてくる防犯情報を自治会に伝達している ⑤ 自治会の会議が月 1 回のためタイムリーに情報提供ができない ①防犯灯の点検 ② 地域からの情報提供により防犯灯の玉切れ等の現地確認をした際、その付近の防犯灯の確認も併せて実施
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他	④ 事業を生み出す原資をしっかりと生み出し確保し、地域ニーズや課題に対応した事業を地域に還元する	① 団員のなり手がいない、高齢化が進行している、勤め人が増え団員になっても土日しか出れない場合が多い	① 第三小学校区の様々な団体・組織に趣旨説明を行う機会や場をつくり、多くの団体・組織の賛同を得られるようにしたい	④ 第三小学校区内の交通指導員の活動に関わる情報交換・共有の場がない	① 任期 2 年であるが、継続・発展的な活動に結びつけづらい、小学校区内外のつながりや情報共有ができていない ④ 他の地域や自治会の先進事例や工夫した取り組み等の情報が不足している
団体の将来展望	・地域の核となるセンターとして、地域の様々な情報を一元的にまとめ、まちづくりに生かしていく ・防災情報の集積と情報発信の拠点	・防災組織等と協力、連携を深め、情報共有を図りながら、災害に備えた体制を整えていきたい ・団員のなり手を確保するため地道に勧誘や PR 活動を続けていきたい	・第三小学校区の様々な団体・組織による防災ネットワーク組織を立ち上げ、防災情報の共有を図り、第三小学校区内の地域特性や実情にあわせた防災活動を推進していきたい ・災害発生時における連絡網の統一	・第三小学校区内の交通安全に関わる情報交換や共有する集まりや場ができればいい	・防犯に関心が高く、意欲的に活動できる人が集まり、小学校区としての組織的な活動の推進 ・「身を守る」という広い視点から、防犯指導員、交通指導員、PTA、個人ボランティア等、多様な組織・人々の情報共有と協力・連携した取り組み
団体活動を通して感じる地域課題	・高齢化の進行 ・高齢者の移動手段の拡充 ・男性の社会参加、地域活動への参加・(現役時代からの活動)	・第三小学校区全体で災害に関する情報共有が十分に図れていない ・昼間は勤め人が地域に不在で災害時の体制が十分ではない		・大人(親)の交通マナーが守られていない(例)道路の歩行時 親子で歩く時、子どもを車道に親が歩道側を歩く等	・防犯等、身を守るための活動について、様々な団体の協力・連携した取り組みが必要

	南敬高齢者クラブ	白井ふじ保育園	白井富士商店会
強み・自慢・売り	みんなが協力的	職員がやりがいをもちよく働く	互いに分かり合い仲間意識が高く協力的
組織	会員:73人 役員:会長、副会長、会計、会計監査 専門部:文化部(4人)、体育部(28人)、芸能部(5人) 班長7人	社会福祉法人いづみ 職員数31人 理事6人、評議員10人、監査役2人	会員:23人(町の時代で多い時会員43名) 役員:会長、副会長、会計、幹事、監査
活動の主な収支 (1000円未満切捨)	[主な収入]市補助金90,000円、南園区自治会より助成金70,000円、会費69,000円(年1,000円) [主な支出]各種会合補助金52,000円、会議費44,000円、研修費40,000円ほか		[主な収入]会費252,000円、市補助金196,000円(街路灯補助)、補助金50,000円(市商工会)ほか [主な支出]街路灯維持管理費261,000円、会議費216,000円、交際費99,000円、広告宣伝費62,000円ほか
主な事業 ①事業名称 ②目的・内容等 ③参加者 ④運営・協力体制 ⑤課題・将来展望	南園地区の60歳以上の居住者が会員相互の親睦と健康福祉の向上を図る ①手芸、俳句等[文化部] ・市高連作品展への出展等 ①グラウンドゴルフ[体育部] ・クラブで大会・試合を開催、試合後に昼食会を開催(年2回) ・南園区自治会レクリエーション大会の支援 ・地区社協主催のグラウンドゴルフによる世代間交流事業への支援 ・市高連、グラウンドゴルフ協会主催のグラウンドゴルフ開催のための支援 ・白井市GG協会の春・秋の大会の手伝い ・白井市民GG大会の実施(10月17日) ・その他各大会に積極的に参加 ①カラオケ、踊り[芸能部] こいのぼり祭り、富士地区合同夏祭りへの参加 社会奉仕の日として地域のごみ拾い、会員の誕生日プレゼントの実施、白井市高齢者連合会の各種行事に参加、毎月第3日曜日12時より役員会・定例会の開催、新年会(1月第3日曜日)、忘年会の開催(12月第3日曜日)	預かり保育事業、延長保育事業、子育て支援拠点事業 地域との接点・関わりがある事業 ①子育て支援拠点事業 ②誰もが自由に利用でき、子どもの遊び、親同士の会話、子育ての相談等の場を提供(週3回) ③3歳児までの親子(延べ2,405人利用) ④保育園 ⑤類似事業との住み分け、役割分担 他に、弁当配食サービス(ふじ元気広場、あいの家[年2回])、交流の場の提供(南敬クラブ)[年1回]、クリスマスフェスタ[富士センター、地区社協と企画中]等 地区社協、ふじ元気ひろば、富士センター、あいの家、南敬クラブとの協力・連携体制	①富士こいのぼり祭り出店 ②富士こいのぼり祭りに出店し、焼きそば、ジュース、かしわもち、ガラポン抽選会等を実施 ④17人程度 ⑤祭りに来た多くの人(子ども)に楽しんでもらえたり、買ってもらえることが、出店のやりがいや喜びにつながっている 他にふるさとまつりに出店
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他	①会員の高齢化、役員のみ手がいらない、新規加入が少なく会員数が減少傾向、南敬クラブ勧誘の回覧の配布	④1組織だけでは活動に限界がある ⇒複数の組織・団体の協力、連携、役割分担が効果的	①後継者不足…発掘・育成が困難な状況 会員数も減少傾向 ④大型店の増加による周辺環境の変化 ⇒上記理由から、廃業する事業者もある
団体の将来展望	継続して組織運営できる体制づくり	・世代間交流のできる場所の確保 ・フードバンクの拠点づくり ・朝食がとれない子どもへの食事提供の支援	・次の担い手づくり(さがし)
団体活動を通して感じる地域課題	・ここ10年間の宅地造成により旧住人との二極化 ・旧住人の高齢化により空き家が増える傾向がみられる	・世代を超えたつながりの不足	・地域のつながりの希薄化 ・高齢化 ⇒室外で集まれる場やコミュニケーションの機会が必要(若者も入るとなおい) ・次世代の育成 ⇒学校での道徳教育、挨拶の習慣づけ